

音楽Ⅰ  
音楽Ⅱ

トゥッティ プラス  
Tutti+

## 編集の趣意と特色



17 教出 音 I 701 音楽 I Tutti+



17 教出 音 II 701 音楽 II Tutti+

教育出版



# 基礎の育成と振り返り 「Review」 「Review of Basics」

小学校や中学校との関連を図り、学習事項や既習曲を振り返るコーナー「Review」や、知識や楽典事項の確認を促すコラム「Review of Basics」を設けました。

音 II p.38-39 東欧・北欧・ロシア 歌の旅

音 II p.20-21 四季の歌

音 I p.61 わかると便利 コードネーム

# 生徒の創造力を高める「音のスケッチ」

創作に関するさまざまな活動を扱うコーナー「音のスケッチ」を、教科書の各所に設け、歌唱や器楽などの表現活動と絡めながら取り扱うことができるよう工夫しました。

音 I p.68  
テーブル・ミュージックを楽しもう

音 I p.143 コンサートを企画しよう

ソナタ形式の基本型	その部分の構成	その部分の長さ
提示部	第1主題	1小節～
	第2主題	1小節～
展開部	二つの主題の展開したり、形を変えたりしながらさまざまな展開がなされる。	9小節～ 16小節～
再現部	第1主題	24小節～
	第2主題	32小節～

音 II p.98 What Is Composition?



# Appreciation

見出しやリード文が題材の内容を補足して、  
聴きどころをより明確化します。

オーケストラの魅力を探ろう

Appreciation

## 二つの旋律から広がる音楽

ラヴェル作曲の「ボレロ」は、特徴的なリズムによって、二つの旋律がさまざまな楽器や楽器の組み合わせを交えて現れる楽曲です。フルート独奏によるピアノソロの旋律が、やがてオーケストラ全体で奏するフォルティッシモの音群となる様子からは、オーケストラの醍醐味を味わうことができます。二つの旋律がどのような楽器で引き継がれていくか注目しながら聴いてみましょう。

### バレエ音楽「ボレロ」

モーリス・ラヴェル (Maurice Ravel)

ロシアの前衛舞踊家イダ・ルビンシテインの依頼により1928年に作曲され、同年11月にルビンシテインによってバリのオペラ座で初演されました。ボレロのリズムは全曲を通して169回も演奏されます。ボレロは、1780年にスペインのセバスティアン・セルソによって始められた舞踊に由来します。

SAMPLE

Maurice Ravel



「ボレロ」モリス・ラヴェルバレエ団

ボレロのリズム  
曲の冒頭、スネア・ドラムが一で刻み始める



楽器の組み合わせと音質の変化に注目してみましょう。

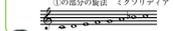
旋律 A

旋律 B

旋律 A では、ハ長調の音階が使われている。



旋律 B では、いくつかの技法が使われているよ。



LINK p.50 教養講座

One More Step!!

②～④の部分で使われている音を調べて、五線譜に並べてみよう。



122

音楽の基礎

1. 1本のフルートが旋律Aを奏し、その後ボレロのリズムに加わります。

2. オーボエ・ダモアレに続き、フルートとトランペットが旋律Aを演奏します。

123

3. 楽器が次々に増えていきます。特にピッコロ、ホルン、チェレスタによる旋律Aは、倍音の効果を利用した響きになります。

4. 木管楽器群に続いて、ついに弦楽器群も旋律に加わります。ヴァイオリンは演奏者の人数が多い点に注目しましょう。

5. さらに3本のトロンボーンが、アンサンブルで旋律Bに加わります。

6. 最終部  
クライマックスに進むとボレロのリズムが停止し、下行する音型を一緒に奏して曲を閉じます。

p.122-123 バレエ音楽「ボレロ」  
「ボレロ」の二つの旋律を演奏する楽器を確認しながら鑑賞します。

情景を思い浮かべながら聴こう

Appreciation

## くじらが泳ぐ雄大なドラマ

「青い水平線」は、収束した3楽章からなる作品ですが、全曲は休まずに聴いて演奏されます。それぞれの楽章には「光を放つ生き物」「クラーケンに挑む海獣」「シロナガスクジラ」と表題が付けられており、海とそこに生きるさまざまな生物が描かれています。三つの楽章を通してどのような物語が展開されているのか、想像を膨らませてみましょう。

### 三つの交響的素描「青い水平線」 Blue Horizons

フランコ・ゼザリニ (Franco Zeffirelli)

フランコ・ゼザリニ (1961～) はスイス出身の作曲家、指揮者、フルート奏者です。「青い水平線」や交響詩「アルプスの詩」などの収束楽曲が知られています。「青い水平線」は2002年に作曲されました。

SAMPLE



この曲には、次のような音楽による描写が現れます。それぞれの情景を捉えながら聴いてみましょう。

(第1～3楽章) くじらをイメージした旋律「くじらのモチーフ」が、全体を通してさまざまな楽器で演奏されます。半音階で上下する動きと跳躍する動きが特徴的で、リズムの変化を伴いながらあることに現れます。

(第1楽章) 大きな異なる複数のベルを1本の輪に通した楽器、ベルツリーの印象的な音色とともに、オーボエとハーブが上行音階を奏します。クラリネットの和音、そして音階を付けた金管楽器の和音と、弓を用いて演奏されるヴァイオリンなどの打楽器の響きが多岐にわたって、「光を放つ生き物」を描写します。

(第2・3楽章) チョーン(二の鍵盤をゴムのボールで擦る特殊奏法)などを用いて、くじらの鳴き声を模倣しています。

(第3楽章) ハープによる分散和音が繰り返され、くじらのモチーフがクラリネットなどで演奏されます。その後イングリッシュ・ホルンやホルンにくじらのモチーフが引き継がれていきます。

### 第1楽章「光を放つ生き物」 Luminescent Creatures

海にさまざまな形や生態をもつ生き物たちが光を放ちながら漂っています。そこへゆったりと大きなくじらが泳いでやってきます。



### 第2楽章「クラーケンに挑む海獣」 Leviathan against Kraken

巨大なイカやタコの絵で描かれることが多い想像上の怪物クラーケンが、旧約聖書に登場する海獣リヴァイアサンに襲いかかります。



### 第3楽章「シロナガスクジラ」 The Blue Whale

静かな海の中を、大きくくじらが悠々と泳いでいきます。くじらは鳴き声とともに、静かな水平線のもとへと遠ざかっていきます。「ブルー・ホーエル」は、シロナガスクジラを象徴する音楽です。



### 吹奏楽の今昔

吹奏楽の起源は中世ヨーロッパの軍楽隊にあるといわれていますが、その後宮廷文化と結びつき、18世紀には祝典や戦乱に欠かせないものとなりました。19世紀になると音楽教育が普及し、現在の構成が大きく変わります。19世紀末にはアメリカやイギリスで多くの吹奏楽作品が書かれるようになりました。現代の日本においては学校の部活動や社会イベント、プロの吹奏楽団などの活動が盛んに行われています。

p.126-127  
三つの交響的素描「青い水平線」  
人気吹奏楽曲が描く雄大な情景をイメージします。

## Dramas & Music

総合芸術とその音楽の魅力をも、鑑賞と歌唱教材を通して体験します。

物語と音楽との関わりに注目しよう

### 総合芸術における音楽の魅力

オペラなどの総合芸術は、文学や美術などさまざまな芸術が結び付いています。20世紀には、映画やテレビドラマ、ゲームなどといったさまざまな新しいジャンルが生まれ、芸術のあり方はますます多様化してきました。ここでは、舞台や映画などと音楽との結び付きによって生まれる効果について考えてみましょう。

#### オペラ

オペラの誕生は1600年頃、イタリアのフィレンツェといわれています。序曲や歌劇といった音楽部分から、舞臺美術や衣装、二重唱、合唱などさまざまな要素の組み合わせられています。歌劇の前身にはレチタティーヴォという、歌とセリフの中間的な部分があり、音楽がつけられないまま上演される部分があります。オペラを意味するオラトリア、ヴァグナーが創始した楽劇などもあります。



SAMPLE

#### バレエ音楽

バレエはルネサンス期のイタリヤを起源とする舞踏です。その発展のために作られた作品がバレエ音楽ですが、現在では舞臺公演において、舞臺の作品として楽譜されることもあります。チャイコフスキーの「くるみ割り人形」や「白鳥の湖」、ストラヴィンスキーの「春の祭典」、ラヴェルの「ボレロ」などはその一例です。



SAMPLE

#### ミュージカル

演劇、歌、ダンスなどの要素からなる舞臺芸術で、19世紀末にアメリカで誕生しました。舞臺はミュージカルやストリートミュージック（白人が中心）やアフリカ系アメリカ人を対象としたミュージカル（黒人が中心）が中心です。その後のジャズやロック、ポップスなどさまざまな音楽を取り込んだ作品が生まれました。また、映画にも制作されたミュージカル映画があります。



SAMPLE

#### 歌舞伎

江戸前編が創始した「歌舞伎踊り」が起源とされており、1600年代前半の寛政時代に「歌舞伎」が誕生していったとされています。音楽は三拍子拍子を用いた長調や徴大調、常磐調、清原調など、調性にこだわります。また、幕下での音楽という小唄家には、効果音や背景音楽などの音楽効果も使われます。



SAMPLE

#### 京劇 ジンジュ(中国)

京劇は音楽と舞踏、芝居の要素を併せ持つ中国の伝統舞臺の一つです。役者は登場によって色目(バイロ)と歌(チャン)を演じ、役柄のタイプによって特徴的な音楽が使い分けられます。伴奏は京胡、琵琶、三弦(京胡)を用い、小のなまこ、單皮(タンビーク)と二胡の板を打つだけ。板(パン)の音が特徴的で、その音がリズムを刻みながら進んでいきます。



SAMPLE

#### カタカリ(インド)

カタカリは、「ラーマナタ」などの伝説的題材としたインドの舞臺舞踊です。演者は大きなスカートと身につけ、仮面のような彩りの化粧を施します。音楽はタンバラ、タムラ、タムラ、タムラなどさまざまな楽器が奏でられます。



SAMPLE

#### 映画音楽

映画は物語に誕生しましたが、当初は映像のみの「サイレント」でした。映画音楽は映像に合わせた音楽が付けられました。1920年代になると、映画音楽が音楽家によって作られるようになりました。これにより、映画の感情や雰囲気をより効果的に表現できるようになりました。映画音楽はサウンドトラックとして高く評価され、その中には多くのヒット曲が生まれました。



SAMPLE

#### ゲーム音楽

家庭用ゲーム機の誕生は、ゲームセンターからゲーム機に持ち込まれたのではなく、多様なプラットフォームの登場によって実現されました。「スーパーマリオブラザーズ」(音楽：近藤浩治)、「ドラゴンクエスト」(音楽：すぎやまこういち)、「ファイナルファンタジー」(音楽：植松伸夫)などの音楽は、オーケストラや交響楽のレパートリーとしても親しまれています。



SAMPLE

**SAMPLE**

p.128-129  
総合芸術における音楽の魅力

さまざまなジャンルを一望できるよう、見開きページに解説文と写真を配置しました。

#### One More Step! 場面や音楽を選んでポスター発表してみよう

作品を鑑賞する際には、登場人物の心情や雰囲気など、場面や音楽の関わりについて、鑑賞と理解が深まることが期待できます。また、音楽を聴くことで登場人物の「喜び」「悲しみ」「怒り」など、その作品の感情について理解し、その感情を表現することもできます。

- 好きなジャンルや作品を選んでみよう
- 作品の魅力を伝えよう
- ポスターを作成しよう
- 発表しよう
- 鑑賞者から感想を聞きよう
- 感想を共有しよう

p.130 オペラ「魔笛」  
p.131 ミュージカル「オペラ座の怪人」

物語と音楽との関わりに注目しよう

## 魔笛

「魔笛」は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756～91) が作曲した魔術的オペラです。作曲時期は1791年頃で、初演は同年の9月30日です。ドイツ語によるジンジュシール(魔術劇)で、オペラの特徴であるアリア、レチタティーヴォの他に、魔術の付かない台詞も含まれています。当初、魔法をテーマにしたリ、機械仕掛けの小道具、曲章などを盛り込んだりした作品の流行を背景に、「魔笛」は誕生しました。

この「魔笛」にはさまざまなテーマが含まれており、「昼と夜」「男性と女性」「理性と感情」など、対立するものを扱っている場面があります。台本は劇作家のエマヌエル・シカネーダ Emanuel Schikaneder (1751～1812) で、自身もババゲーノ役で出演しました。

#### あらすじ

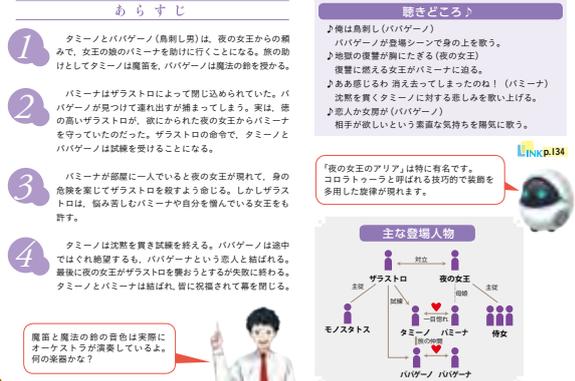
- タミーノとパバゲーノ(鳥刺し男)は、夜の女王からの頼みで、女王の娘のパミーナを助けに行くことになる。旅の助けとしてタミーノは魔笛を、パバゲーノは魔法の杖を授かる。
- パミーナはザラストロによって閉じ込められていた。パバゲーノが助けに来て救出しようとする。しかし、魔笛の力によって、女王の呪いから解放される。女王は、魔笛の力によって、女王の呪いから解放される。
- パミーナが部屋に一人でいると夜の女王が現れ、身の危険を感じてザラストロを救おうとする。しかし、魔笛の力によって、女王の呪いから解放される。
- タミーノは魔笛の力によって、女王の呪いから解放される。女王は、魔笛の力によって、女王の呪いから解放される。

#### 観るどころ

- 鳥刺し男(パバゲーノ)のパバゲーノが登場シーンで身の上を歌う。
- 地獄の復讐が胸にたぎる(夜の女王)復讐に燃える女王がパミーナに迫る。
- ああ感じるわ 消え去ってしまったのね!(パミーナ)沈黙を貫くタミーノに対する恋しみを歌い上げる。
- 恋人が歌う(パバゲーノ)相手か歌女という業態を誇りを胸に歌う。



SAMPLE



SAMPLE

Dramas & Music

## オペラ座の怪人

「オペラ座の怪人」は、作曲家アンドリュー・ロイド・ウェッバー Andrew Lloyd Webber (1948～) のミュージカルとして1986年にイギリスで公開され、2004年に映画化されました。フランスの指揮家ガストン・ルルー Guston Loux (1868～1927) の小説が原作です。2011年には25周年を記念してロンドンのロイヤル・アルバート・ホールに配した壮大なスケールの舞臺が実現しました。19世紀末のパリ、オペラ座に棲み付いた怪人(ファントム)と、怪人に音楽の才能を発見されたクリスティーンとの間にある葛藤を、壮麗な楽曲にのせて描いています。

#### あらすじ

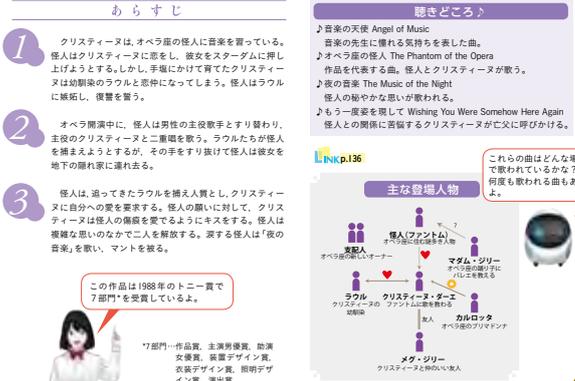
- クリスティーンは、オペラ座の怪人に音楽を習っている。怪人はクリスティーンに恋をし、彼女をステージに押し上げようとする。しかし、手紙に書いてあったクリスティーンは幼馴染のラウルと恋仲になってしまふ。怪人はラウルに嫉妬し、復讐を誓う。
- オペラ座演劇中、怪人は男性の主演歌手とすり替わり、自身のクリスティーンと二重唱を歌う。ラウルたちが怪人を捕まえようとするが、その手をすり抜けて怪人は彼女を地下の隠れ家にも連れて去る。
- 怪人は、遠く離れたラウルを人質とし、クリスティーンに自分への愛を要求する。怪人の願いに対して、クリスティーンは怪人の復讐を覚悟するようになり、ラウルは怪人は復讐の無いので二人を解放する。涙する怪人は「夜の音楽」を歌い、マントを脱ぎます。

#### 観るどころ

- 音楽の天使 Angel of Music 音楽の先生に憧れる気持を表現した曲。
- オペラ座の怪人 The Phantom of the Opera 作品を代表する曲。怪人とクリスティーンが歌う。
- 夜の音楽 The Music of the Night 怪人の秘やかな恋が歌われる。
- もう一度愛を覚悟して Wishng You Were Somehow Here Again 怪人とクリスティーンが苦悩するクリスティーンが父に呼びかける。



SAMPLE



SAMPLE

ストーリーの展開に音楽の関わりを詳しく見よう



## 検討の観点と特色

項目	観点	特色等
1 内容の選択 ・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のための配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領に示された学習項目を網羅し、偏りなく構成されている。</li> <li>○ Voice、Instruments、Appreciation、Dramas &amp; Musicの各ブロックから構成され、「芸術科 音楽Ⅰ／音楽Ⅱ」の学習事項を獲得するために十分な教材数と内容となっている。</li> <li>○ 巻末の楽典、音楽史年表、ギターやキーボードのコード表は、生徒が自ら表現教材に記されている用語を調べたり、楽器の奏法を確かめたりする上で資料性が高く、また鑑賞教材の時代的な位置づけや背景を理解する上で有用である。</li> <li>○ 各教材の下に脚注が置かれ、作品の理解の補助となる。</li> </ul>
2 組織・配列 ・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導を有効に進めるための組織・配列・分量</li> </ul>	<p><b>【音楽Ⅰ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現領域においては、学習活動を焦点化した題材のもとにさまざまな教材が集約されている。歌唱では、日本の歌からヨーロッパの歌曲、合唱曲まで幅広いジャンルから選曲されている。器楽では、リコーダーやギターの演奏に適した教材のほか、導入時に有用な手ほどきのページも設けられている。身体を用いたリズム・アンサンブルなど、生徒の興味を引き出す教材も取り上げている。</li> <li>○ 創作は「音のスケッチ」の各コーナーにまとめられており、音楽のしくみを理解しながら、個性豊かに創作活動が展開するように配慮されている。</li> <li>○ 鑑賞領域においては、曲種や音楽史などの視点から題材が設けられ、バランスよく選曲されている。雅楽の鑑賞や演奏に取り組む題材や近隣諸国の音楽に目を向ける題材などが設けられ、音楽の多様性や美しさにふれることができるように配慮されている。</li> <li>○ 総合芸術を扱う「Dramas &amp; Music」では、さまざまな舞台芸術を紹介するページが設けられている。オペラやミュージカルなどの作品を鑑賞したり、歌唱したりすることにより、学習が深まっていくように配慮されている。</li> </ul> <p><b>【音楽Ⅱ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱では、混声合唱作品に作曲家からのメッセージが掲載されており、表現活動を行う上で有用である。器楽においても、小品から器楽合奏まで幅広く取り上げている。</li> <li>○ 「音のスケッチ」は、音楽Ⅰの諸活動を踏まえ、さらに深化、発展させることができるよう工夫している。</li> <li>○ 鑑賞では、世界各地の踊りに焦点化した題材や、現代音楽を紹介した題材などを設け、生徒の興味を引き出せるよう工夫している。</li> <li>○ 「Dramas &amp; Music」では、オペラ「トゥーランドット」の物語と音楽の関わりに着目する題材のほか、「羽衣伝説」に焦点化したコーナーまで、幅広い活用が期待できる。</li> </ul>
3 表記・表現 および 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮、用語・記号の取り上げ方および記述の方法</li> <li>* 印刷の鮮明度、活字の大きさ、行間、製本など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 用語、記号は特殊なものは楽譜下に、汎用性の高いものは巻末にまとめて掲載されている。楽典、楽式に関するものや作曲家の肖像なども表や図版により見やすくまとめられている。またギターやキーボードのコードの一覧表もあり、資料として有用である。</li> <li>○ A4判の判型で楽譜もゆったりして、音符や歌詞がたいへん見やすい。また紙質は白く、印刷も鮮明で、各所にあるカラーの図版や写真が美しく、生徒の学習意欲を高める。表紙はコーティングが施され、製本も堅牢である。</li> <li>○ CUDに配慮した色づかい、紙面構成が工夫されている。</li> </ul>
4 総合所見		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽文化についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を伸ばすのにふさわしい教材や写真・図版が精選されており、創造的な音楽の力、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てることが意図されている。</li> <li>○ 全般にわたり指導要領の目的に沿った学習内容を基本としながら、普遍的な価値をもつ教材と新しい教材がバランスよく配置されている。</li> </ul>

### 本書の著作者

#### 【監修】

新実徳英 作曲家

#### 【編集・執筆】

相澤直人 指揮者・作曲家

遠藤 徹 東京学芸大学教授

金光真理子 横浜国立大学准教授

佐川 馨 山形大学教授

末石忠史 東京都立大森高等学校教諭

中内悠介 東京学芸大学附属世田谷中学校教諭

沼野雄司 桐朋学園大学教授

藤田 茂 東京音楽大学教授

(音楽Ⅱ)

教育出版株式会社編集局

弊社Webサイトより「検討の観点と特色」のwordデータをダウンロードいただけます。



### 平成 21 年学習指導要領対応教科書

音楽Ⅲ 改訂版 [17教出 音Ⅲ 304]  
(平成31年度版)

 教育出版株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館

TEL : 03-5579-6278 / FAX : 03-5579-6444